



地震観測中央処理装置モニタ画面

## 地震観測システムの導入事例のご紹介 ～福岡北九州高速道路公社様～

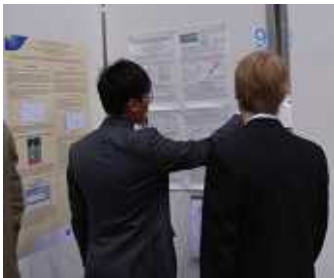
福岡市ならびに北九州市の指定都市高速道路を運営する福岡北九州高速道路公社様(本社:福岡県福岡市)は、明星電気の計測震度計S100などを利用した地震観測システムを導入しています。

導入目的は、地震発生時に正確な地震規模を把握して、高速道路を利用されている方の安全対策に万全を期すためです。福岡都市高速は7箇所、北九州都市高速では3箇所にて震度計を設置して、地震観測中央処理装置側で24時間監視を行っています。震度5弱以上で車両通行止めを行い、4以上で注意情報を道路情報板に表示させて運行者へ促す仕組みとなっています。

また、今年9月に北九州都市高速では、更なる安全対策に向け地震観測中央処理装置の更新を行い最新機種を導入を行いました。

明星電気では、今後もお客様の地震災害リスクや立地条件を考慮したシステムのご提案を行ってまいります。

(当社営業担当:九州支店 池尻 秀人)



ポスターセッションで説明を行う当社技術部社員(写真左)

「日本からの参加は当社だけであり、これからは日本の気象測器業界をリードしていきたい」と意気込みを語っていました。

## WMO主催の技術会議に参加！ポスターセッション好評

11月27日から28日に、WMO(世界気象機関、本部:スイス ジュネーブ)の主催するTECO(技術会議)がロシア サンクトペテルブルクで行われ、明星電気からは営業1名、技術1名の計2名が参加しました。

WMOは、国際連合の専門機関の1つで、気象観測業務の国際的な標準化と調整を主な業務にしている機関です。本会議は、2年に1度行われ世界中から気象局、研究者および気象関連企業の関係者が集まり、今後の全球規模の観測網をどのように整備するか、どこに重点を置くかなどが技術的な視点を交えて話し合われます。地球温暖化等が叫ばれる昨今では、気象観測は世界中の政府だけでなく、測器を提供する気象関連企業の協力も必要不可欠な状況となっています。

また、会議後のポスターセッション(学会で用いられる壁などに資料を貼り出して、適宜説明を行う報告形式)では、従来のラジオゾンデに比べて100倍以上の応答速度を持つ温度センサの開発成果について発表を行いました。

明星電気は、今後も世界が認める開発を推進してまいります。

〔参加者:開発支援グループ 清水 健作〕  
第二営業部 長谷田 光俊



感謝状贈呈式に参加した当社社員

(左から)  
装置開発技術部 用 博  
第一営業部 澤地 秀男  
装置開発技術部 寺門 康男

## だいち(ALOS)の運用に貢献！感謝状を頂きました！！

陸域観測技術衛星「だいち(ALOS)」は、2006年1月24日に種子島宇宙センターよりH-Aロケット8号機によって打ち上げられた、世界最大級の地球観測衛星です。地図作成に必要な地形データの正確な取得、地域観測や災害状況の把握、資源の探査を行っています。今年5月12日に中国四川省で発生したマグニチュードM8.0の大地震では、現地の被害状況を把握するのに役立ちました。

だいちには打上げ後3年間の寿命を有する設計であり、さらに打上げ後5年間を目標寿命に設定して推進等を搭載しています。

今年12月5日、明星電気は宇宙航空研究開発機構(JAXA)様より、打上げ後3年に渡り正常に機能し大きな成果を上げているとして、衛星開発に携わった開発メーカーなど数機関と一緒に感謝状を頂きました。だいちには、当社が開発した軽粒子重イオン観測装置が搭載されており、部品の宇宙放射線による劣化、誤動作の解析、評価に必要なデータの観測に役立てられています。

## FROM UNDERWATER TO OUTERSPACE

明星電気は先端技術を活かし、～水中から宇宙まで～をテーマに

人と社会の豊かな未来づくりを目指す世界の総合環境観測システムメーカーです。